

Book Review

人生のヒント
Vol.1



今号からスタートするこのコーナーでは、
毎回異なるブックナビゲーターに、
人生やライフプランを考える上での
ヒントとなる本をご紹介します。

Review. 2

書齋の鍵

喜多川 泰 著



(現代書林 刊、2015年6月)

横浜の学習塾の経営者が書いた、読書がもっと好きになる小説です。著者の喜多川泰さんは、学習塾を経営する中で、子供たちに生きる楽しさを伝えるためにたくさんの小説を書いています。この本は、そんな中でも「読書」をキーワードにした物語になるので、特におすすめです。最近、世間では読書離れが問題になっていますが、この小説を読めば、読書をすることで、人生が豊かになること、視野が広がることに気づくはず。最初は、読書が嫌いな主人公が、亡き父親が遺した時代遅れの「書齋」に向き合う中で、読書に目覚めて成長していく姿には、感動の2文字があります。感動のラストもあるのですが、あとはご自分の目でお確かめください。

Review. 3

バビロンの大富豪

ジョージ・S・クレイソン 著
大島 豊 訳



(グスコ出版 刊、2008年8月)

こちらの本は、90年以上前から読み継がれている不滅の名著と言われています。90年も前という、現代とでは、社会背景や経済情勢などはまったく違うように思えますが、時代が変わっても変わらない原則があるので。物語形式で、いくら働いてもお金を手にすることができない主人公が、大富豪から経済的な面で成功するための「繁栄の原則」を授かります。その原理、原則は、一見どなたでも、そして、すぐにでもできるシンプルなものですが、その先は読んだ方が、日常生活で実践するかどうか大切になってきます。この本は、昔から経営者の方に大人気だったのですが、経営者の方以外にも、ライフプランにも役立つ知恵が満載ですよ。

ブックナビゲーター

清水 克衛

書店「読書のすすめ」代表

【しみず・かつよし】大手コンビニエンスストアの店長を10年務めたのち、平成7年に東京都江戸川区篠崎で小さな書店「読書のすすめ」を開業。著書に『魂の燃焼へ』（イースト・プレス刊）など多数。



Review. 1

サービスの心得

高萩 徳宗 著



(エイチエス刊、2010年11月)

サービスの心得と一言で言っても、こちらの本には巻の本によくあるサービスのテクニックは一切書かれていません。やり方を変えるのではなく、考え方を変えることが大切だと著者の高萩さんは言います。高齢の方や障害を持つ方を専門とした旅行会社の経営者なので、テクニックや技術を超えた「サービスの本質」を考えるために最適な1冊になっています。迷ったら原点へとよく言いますが、「そもそもサービスとは？」というところから考え直してみると、大切な仕事の原点へ戻れるのではないのでしょうか？ どんな仕事でも、大きく見れば人と関わる仕事になるので、「サービス」を考えることは大切です。もちろん、人間関係にも活かされます！